

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

雨の季節には、仏さまの教えを聞き、

静かにわが身をふりかえら

「安居会」「夏安居」という行事が、

お釈迦さまの頃から伝わっています。

田植時期の疲れを、お法の水で流

そうという、ゆかしい夏の法座です。

お誘いあわせ、お参り下さい。

夏法座のご案内

日時

六月二十六日(火)

昼一時半 夜七時半

六月二十七日(水)

昼一時半

講師

福岡筑紫野市光伝寺住職

木村 大信師

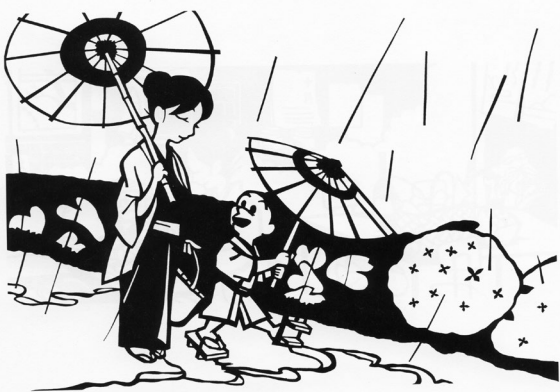
夜の法座は、昼間お勤めの方、特

に壮年男性の方にお参りいただき

たいとの願いで開いております。

九時終了。お待ちしております。

27日昼の席では、ホワンシー・コーラスの皆さんに歌っていただきます。皆さんも一緒に、楽しく歌って下さい。





毎日、お参りしましょう！

キャンペーン 第二弾

「効〜」や「聞〜」

極楽寺では、「毎日、お参りしましょう！キャンペーン」

を始めました。朝晩、お仏壇の前で、阿弥陀様に手を合わせる。昔は、当たり前のように見られた光景が、今では珍しいものになってしまいました。その尊さを再確認していきましょう！というのが、その狙いです。

先日、『宇宙兄弟』というマンガを読んでいると、「ごちそうさま」と手を合わせる女性の姿を見た主人公が、「なんて幸せそうに、お昼を食すんだ」と好意をいだくシーンがありました。確かに、手を合わせる姿は美しいですね。特に感謝する姿、尊ぶ姿というのは、本当に素敵です。ところが、お願いする手の合わせ方というのは、欲望が剥き出しで、あまり美しく思えないのは私だけでしょうか。勿論、切実な事情がある方を笑うわけにはいきません。人間ですから、願わずにはおれない場合だってあります。



『宇宙兄弟』小山宙哉
講談社『モーニング』連載中

でも仏さまは、その心は受け止めて下さるのですが、かなえてはもらえないのです。残念ながら、お仏壇とはそんな場所ではありません。

歯医者さんによると、世の中には「入れ歯が合う人」と「合わない人」がいるそうです。合う人は、作ってもらった入れ歯がだいたい一発で合う。合わない人は、いくら作り直しても合わない。それは、別に口の形状に違いがあるからではなく、自分の本来の歯があった時の感覚が「自然」で、それと違う状態は全部「不自然」だから嫌だという人は、何度やっても合わない。それに対して「歯がなくなった」という現実を涼しく受け入れた人は「入れ歯」という新しい状況にも自然に適應できるということです。確かに、絶対に合わない場合だってありますが、多少の違和感は許容範囲。あとは自分で工夫して合わせばいい。つまり、入歯を合わないものにさせているのは、「こうでなくてはならない」という固定観念（自分の思い）や、「こうありたい」という自分の願いだとい



うことなのでしよう。自分の思いや願いが、自分を苦しめる状況を生み出しているのです。

「若くなければ」という思いは、「歳をとったらつまらない」という思いを、「健康でありたい」という思いは、「病気になるたらつまらない」という思いを生み出します。仏教では、いくら美容液を使っても、どんな健康法を使っても、誰もが老い、病んでいく現実が変わらないと教えます。それどころか、その思いが自分を苦しめていくのだとも。

あるカウンセラーの方は、「人からいじめられることは、もつらいことだけれども、自分を自分でいじめることは、もつらいことだ」と言われています。私たちは、自分の思いで自分をいじめているのかもしれませんが、そして、思いや願いが頑かたくなになればなるほど、ますます自分で自分を追おい詰つめていくのでしよう。

阿弥陀如来という仏さまは、「あなたの願いが、本当にあなたを幸せにするのですか？」と、問いかけ、心配し、共に人生を歩んで下さる仏さまなのです。私の頑かたくな思いを、問い直し、柔らかくさせて下さるのです。そんな阿弥陀様の願

いを聞き、自分の思いや思いを見つめ直す時間は、人間が生きる上において、本当に大切な時間ではないでしょうか。

東井義雄先生は、阿弥陀様の願いを聞き開く歩みの中で、

「老いの日には 老いの日にしか

聞かせていただけない ご説法せっぽうがある

病む日には 病む日の ご説法せっぽうがある」

「雨の日には 雨の日の 老の日には 老の日の

かけがえない 大切な人生がある」

という世界と出遇であわれておられます。

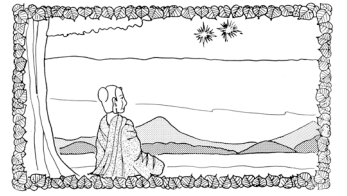
あるご住職が、お寺の境内けいだいでひなた

ぼっこをしていると、通りすがりの観光客の方が、「お参りしてもいいですか？」とたずねられました。「どうぞ、どうぞ」と薦すすめると、「このお寺は、何にきくお寺なのですか？」と質問されたそうです。この場合の「きく」とは、病気が治るとか、商売繁盛しょうばいはんじょうとか、学業成就がくぎょうじょうじゆといった「どんな願いに効きくのか」という意味ですね。

すると、そのご住職。こう答えられたそうです。

「このお寺は、阿弥陀様の願いを聞きくお寺なのですよ。」





極楽寺揭示伝道 けいじてんどう



5月の言葉

「物は考えよう」という言葉があります。『広辞苑』を調べると、「物事は考え方ひとつで、よくも悪くも解釈できるものだ」とあります。確かに、考え方、受け止め方ひとつで、ものの見方は変わり、世界が変わります。しかし、その場しのぎの、自分に都合の良い解釈になってしまうと、責任逃れや現実逃避になってしまいます。それでは、大切なことを見失いかねません。だからこそ私たちの先輩方は、阿弥陀様を人生のよりどころとして、阿弥陀様と相談しながら生きていかれたのです。

ある小学校に、「うちの子どもは給食費を払っているのに、なぜ「いただきます」を言わなくてはならないのか」というクレームが来たそうです。「給食費を払っているから、サーブスを受ける権利がある」からとのこと。世の中、お金だけ

でしか見ることができない人は、お金さえ払えば、食おうが、食べようが、捨てようが、何とも思わないし、その権利があると云うのでしょうか。

同じようなクレームに、「授業料を払っているんだから、授業を受けるのは当たり前。だから、先生に頭を下げる必要はない。」というものがあるようです。しかし、街の力ルチャースクールでお茶やお華を習う時でも、「俺は金を払ったから、ちゃんと教えろ」などという態度をする人など、まずいけません。教えていただくときには、師に敬意を払うのは当たり前。食事のときも同様です。お金だけで物事を考えるのは、人間の傲慢さゆえのこと。大自然の前では、そんなものがいかに小さなことなのかを、私たちは大震災を通して知らされたはずではなかったでしょうか。

いただいた恵みに敬意を払う謙虚な生き方は、大きないのちのつながりへの出遇いを開きます。その感動は、自分の都合ばかりを振り回す解釈では、育てることはできません。私たちの先輩方は、阿弥陀様の心をより所とする中で、その尊さに気づいていかれたのです。■

本物とにせ物は
見えないところの
あり方で
決まる

極楽寺揭示伝道



6月の言葉

思想家の内田樹先生しそウカ たうるが、ある東大出の若者と話をし、あまりにもを知らないので驚いたことがあったそうです。さすがに内田先生が、「何で君はそんなにものを知らないんだ」と訊ねると、彼は「だって僕全然勉強しませんでしたから」と明るく笑って答えたとのこと。つまり、彼は自慢しているのです。子供の頃から試験は一夜漬け、レポートは人のものを丸写し、試験はカンニング。要領ウチウチだけで、全然勉強せずに超一流の学歴を手に入れました。そんな僕って凄いでしょ。彼は何の疑問もなく、誇らしく語ったそうなのです。この考え方を内田先生は、「消費者マインド」と指摘しってきされています。確かに、できるだけいいものを、できるだけ安く、簡単に手に入れようというのが、「消費者」といわれる私たちの考え方のなのかもしれません。そして、その考え方がすべてに適用てきあさ

でしょう。

しかし、こんな若者ばかりの世の中って、どうですか。トークが達者で、要領ウチウチがよくて、見栄みばえばかりに気を使う。ウケのいいことはやるけれども、地味じみで結果が見えにくいものには手をつけない。汚い、くさい、キツイ仕事はやりません。そんな人ばかりの世の中は、本当に薄っぺらで、心貧しいものだと思いますか。でも現実にはそんな人に人気があって、そんな生き方に憧れている人の方が、多いのではないのでしょうか。

お念仏の教えを根っ子に、生涯じふいふを教育に尽くされた東井義雄先生よしおが初めて校長をされた小学校は、築八十年の古い校舎でした。しかし、立派な木が使われ、しかも柱・腰板・板戸・床板等しつかり磨みがかれ、味わい深く光っていたそうです。東井先生は、この光を曇らせてはならないと、毎日、子どもたちと磨き続けられたのですが、後任の校長先生は、



薄っぺら・

すべて青白いペンキを塗ってしまわれたのです。パツと明るい感じにはなりましたが、やがてペンキの色がさめ始めると、古いの醜さばかりが目立ち、言いようのないあわれさが露出してきたそうです。

東井先生は言われます。「磨く文化が否定されて、飾る文化が横行してきているのだ」と。磨く文化は内を大切にす文化です。飾る文化は、見えないところよりも見えるところを気にする文化です。表を飾って、中のお粗末さを誤魔化す文化です。

私たちは、表ばかりを気にして、見えないところに思いを馳せる心を忘れてしまったのではないでしょうか。そして、本物と贋物の見分けもつかず、薄っぺらな生き方しかできなくなっているのではないのでしょうか。

お念仏の教えとは、見えないけれども私を支え生かして下さる世界を思い、受け止める「心の眼」を育てて下さる教えです。そこにこそ、深く心豊かな生き方があるのだと、教えて下さるのです。■



極楽寺ホームページ

随時更新しています

[極楽寺.com](http://www.gokurakuji.com) で検索して下さい

1973 (昭和 48) 年の「前住職継職法要」と 1982 (昭和 57) 年「本堂落慶法要」の映像をアップしました。懐かしい人々と懐かしい風景を、動画で見ることができます。



極楽寺だよりを送りませんか

極楽寺では、都会に出られているご門徒、ご家族、有縁の方々に、極楽寺だよりをお送りしています。現在、送り先は 100 件以上となり、お寺としても大変うれしく思っております。できれば、もっと増えるとうれしいのですが。

都会の子どもさんやお孫さんに、送られてはどうでしょう。連絡先を教えてください。できれば、お寺から直接お送りします。ご遠慮なくお申し出下さい。



お念珠の作法

お念珠は、仏さまにお参りするときを使う仏具です。

経典と同じく、足の裏をつけるところには、置かないように気をつけましょう。



男性用お念珠



女性用お念珠



女性用お念珠には、
双輪のものもあります。



普段は、左手に持ちます



合掌のときは、両手に通し、
房を下に垂らします。

「お念珠の紐が切れたら、悪いことがある」などということは、迷信です。住職なんて、何本切ったことか・・・(トホホ)。ちなみに、男性用の念珠なら、お寺で修理いたします。女性用で修理を希望される方は、仏具屋さんかお寺にご相談下さい。お寺から、京都の念珠屋さんへ依頼します。(実費がかかります。紐だけを繋ぐなら、1,500円程度。房も変えるならば、2,500円程度です。)

第29回 児童念仏奉仕団のご案内



大津東組（長門・三隅地区の浄土真宗寺院）では、夏休みを利用して小学三年生から中学一年生を対象に、ご本山参りを企画しております。是非ご参加を、お呼びかけ下さい。

- ◆期 日 2012 (平成24) 年 7月25日 (水) ~27日 (金) 二泊三日
- ◆対 象 小学三年生~中学一年生
- ◆参加費 38,000円 (極楽寺より、些少ですが補助が出ます。)
- ◆申込み 7月6日までに極楽寺へ
- ◆日 程

7月25日	長門 ⇒ 新幹線 ⇒ 京都 (朝7時半頃出発) (西本願寺・京都散策)
7月26日	京都⇒大阪ユニバーサルスタジオジャパン ⇒大阪南港よりフェリー (船中泊)
7月27日	新門司港 (朝8時頃) ⇒ 帰宅 (10時すぎ)



大阪のユニバーサルスタジオジャパンにも行くよ!



※ 詳細は、極楽寺までおたずね下さい。

世話人の交代について

世話人の交代がありましたので、ご報告いたします。

【辻並】

上田耕作さん 逝去により <1989 (平成元) 年6月より、9年3ヶ月在任>
新任 松並唯夫さん

【野波瀬 西】

退任 角村信忠さん <1991 (平成3) 年4月より、21年1ヶ月在任>
新任 岩本 勉さん

上田さん、角村さん、長い間本当に有り難うございました。
松並さん、岩本さん、どうぞよろしくお願ひします。